



## 第2章

## 食に関する現状と課題

-  小牧市食育推進計画を策定するにあたって、市民の食育に関する現状や考えを把握するため小牧市食生活等に関するアンケート調査を実施しました。
-  小牧市食生活等に関するアンケート調査の結果から、小牧市の現状と課題について整理します。

### 2-1 アンケート調査について

#### (1) 調査の目的

小牧市食生活等に関するアンケート調査は、小牧市民の食生活等に関する現状や考えを把握し、「小牧市食育推進計画」の策定の基礎資料を得る目的で実施しました。

#### (2) 調査の設計

	一般調査	小中高校生調査	幼稚園・保育園の保護者調査
(1) 調査対象	小牧市に在住する 20歳以上の男女	小牧市内の小学校、 中学校、高等学校 (小学校 4校/16校中 中学校 2校/9校中 高等学校 2校/4校中)	小牧市内の幼稚園、保育園 (幼稚園 2園/11園中 保育園 2園/19園中)
(2) 標本数	1,500 サンプル	866 サンプル	597 サンプル
(3) 抽出方法	無作為抽出	—	—
(4) 調査方法	郵送法	学校にて配布、回収	保育園・幼稚園にて 配布、回収
(5) 調査期間	平成20年9月12日～9月26日		

#### (3) 回収結果

##### ◆一般調査

配布数	回収数	有効	無効	未回収
1,500	685	683	2	815
100.0%	45.7%	45.5%	0.1%	54.3%

※白紙票は無効としました。

##### ◆小中高校生調査

学年	回収数
小学校5年生	299
中学2年生	325
高校2年生	242
計	866

##### ◆幼稚園・保育園の保護者調査

区分	回収数
幼稚園	306
保育園	291
計	597

#### (4) グラフの見方

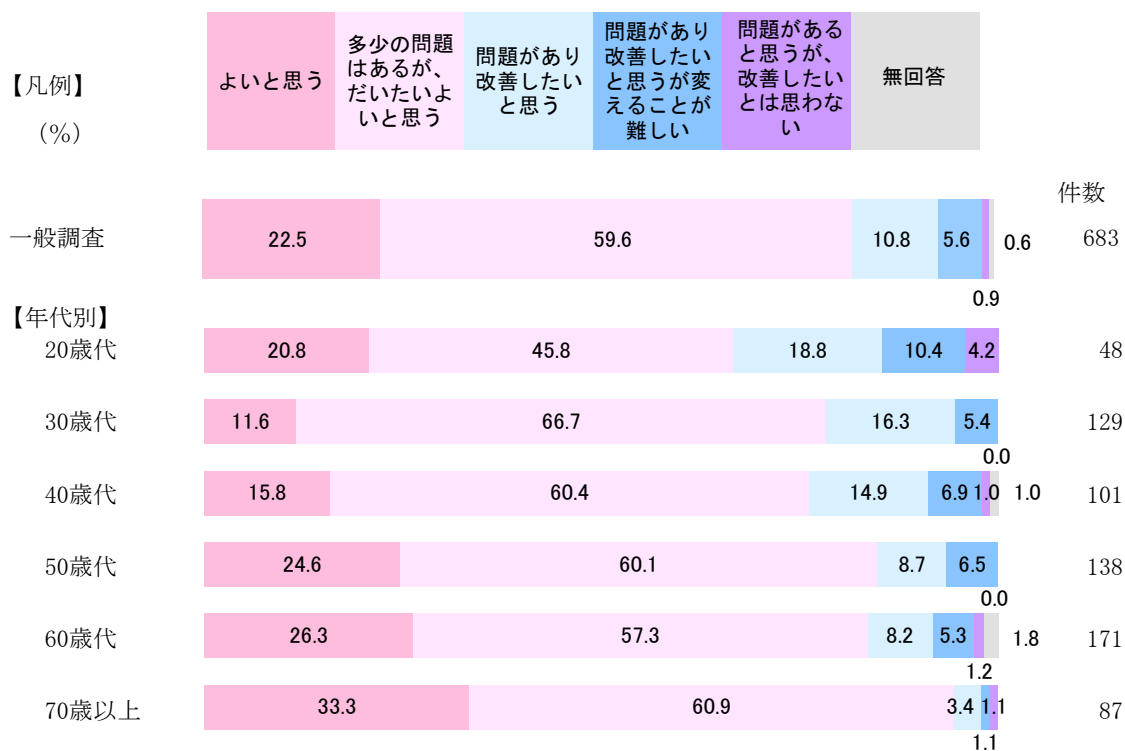
- ① 比率はすべてパーセント (%) で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセント (%) の合計が 100 にならないこともあります。
- ② 基数となるべき実数は「件数」として掲載しました。したがって比率は、件数を 100%として算出しています。
- ③ クロス集計を行っている場合、分析軸に使用した設問に回答がない場合、全体の基数と分析軸の基数の合計は合わない場合があります。
- ④ 複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をします。そのため、各項目の比率の合計は通常 100%を超えます。
- ⑤ 表、グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。

## 2-2 アンケート調査結果の概要

### (1) 食生活と健康について

#### ①自身の食生活の評価

自身の食生活を「よいと思う<sup>※1</sup>」人は全体で82.1%となっています。一方、「問題があると思う<sup>※2</sup>」人は全体で17.3%であり、年代別にみても20歳代（33.4%）、30歳代（21.7%）、40歳代（22.8%）となり、若い世代ほど自身の食生活に問題を感じている人が多い傾向があることがわかりました。



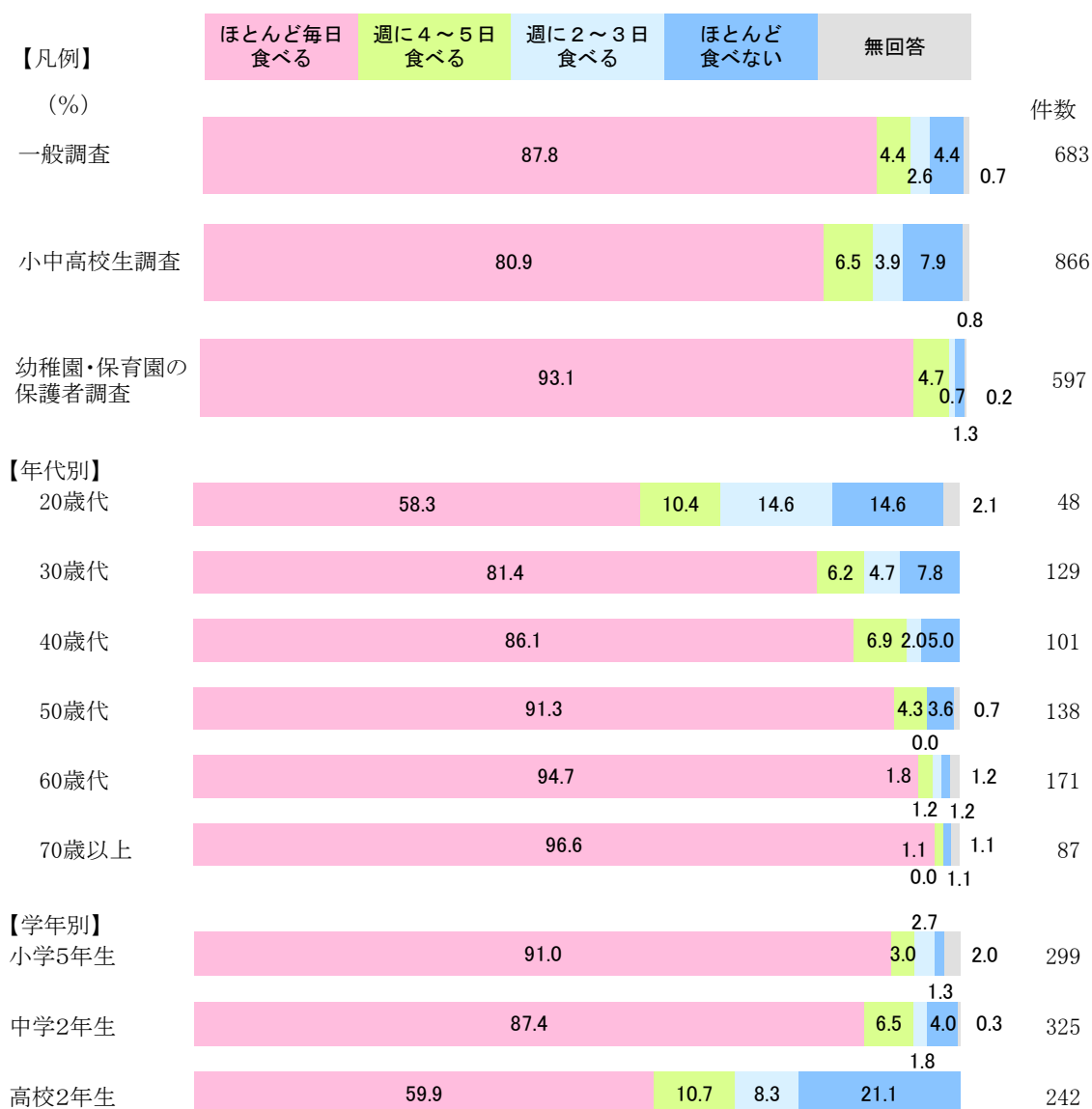
※1 「よいと思う」「多少の問題はあるが、だいたいよいと思う」の計

※2 「問題があり改善したいと思う」「問題があり改善したいと思うが変えることが難しい」「問題があると思うが、改善したいとは思わない」の計

②朝食の欠食状況

朝食を「ほとんど毎日食べる」人は一般調査全体では87.8%ですが、年代別にみると、20歳代では58.3%と低く、「食べないことがある人<sup>※1</sup>」をあわせて39.6%となっています。高校2年生でも「ほとんど毎日食べる」人は59.9%と低く、「食べないことがある人<sup>※1</sup>」が40.1%を占めています。幼稚園・保育園では、93.1%の保護者が子どもは朝食を「ほとんど毎日食べる」と回答しています。

中学生から、朝食の欠食が目立つようになり、高校生、20歳代で最も高くなります。自分自身で食事を管理する時期であるため、朝食をとることの必要性や効果について意識啓発を行うことが重要です。



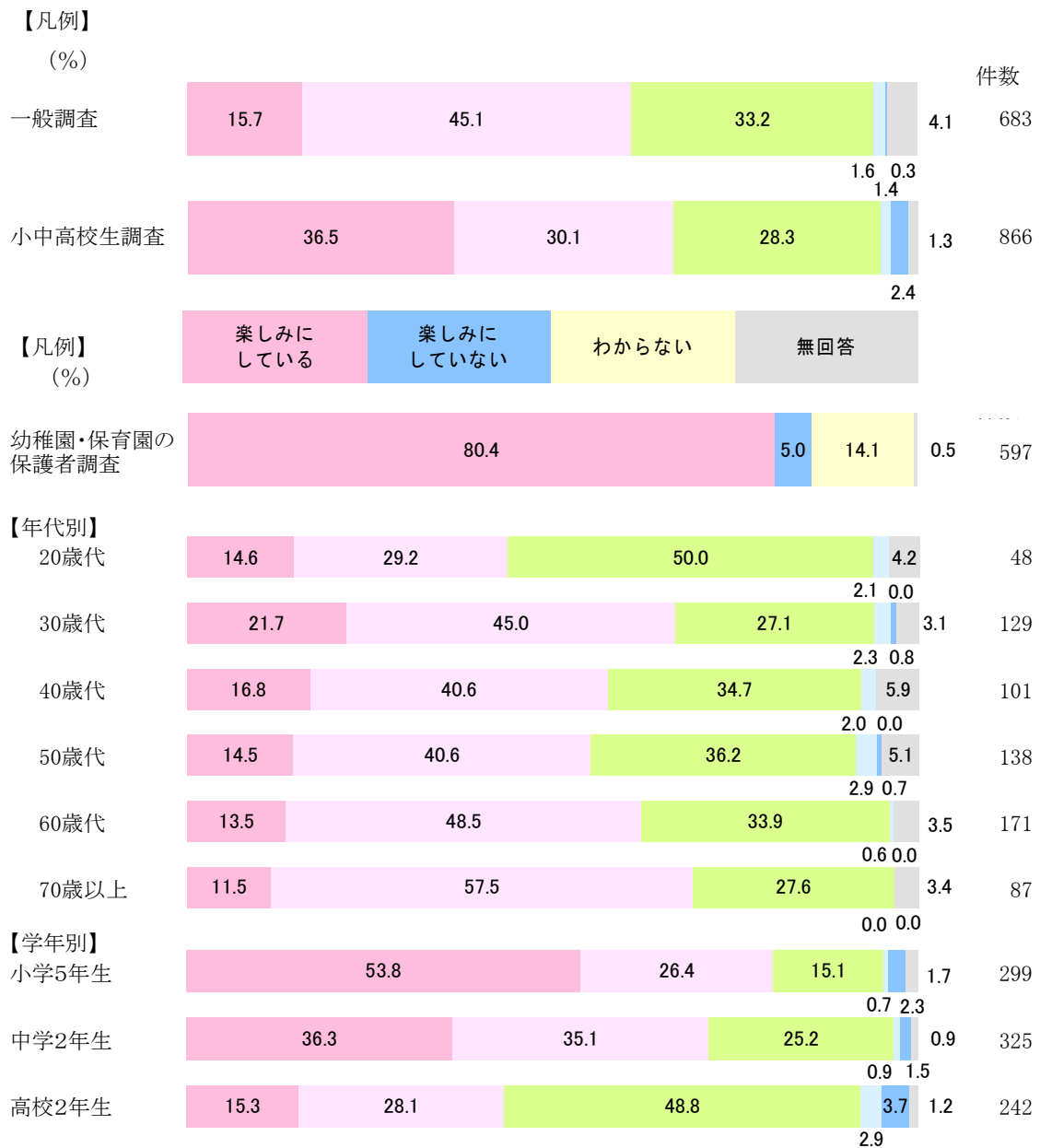
※1 「週に4~5日食べる」「週に2~3日食べる」「ほとんど食べない」の計

③食事の楽しさ

毎日の食事が「楽しい※1」と答えた人は、一般調査全体で60.8%で、年代別に見てみると70歳以上では7割近くになっていますが、20歳代では4割台となっています。

小中高校生調査では、学年が上がるにつれて「楽しい※1」の割合が減少し、「どちらともいえない」の割合が増加しています。

幼稚園・保育園の保護者調査では、子どもが食事を楽しみにしているかどうかについては、80.4%が「楽しみにしている」と回答しています。

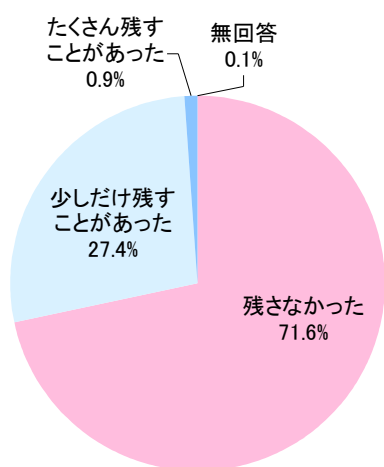


※1 「とても楽しい」「楽しいことが多い」の計

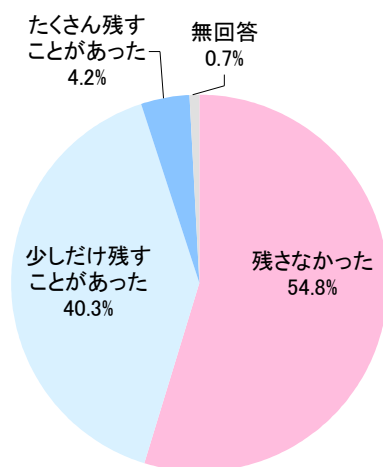
④食事の食べ残しの有無

1週間の食事で食べ「残さなかった」人は、一般調査では71.6%、小中高校生調査54.8%、幼稚園・保育園の保護者調査20.3%となっています。逆に「少しだけ残すことがあった」「たくさん残すことがあった」人は、一般調査よりも小中高校生、幼稚園・保育園での割合が高くなっています。

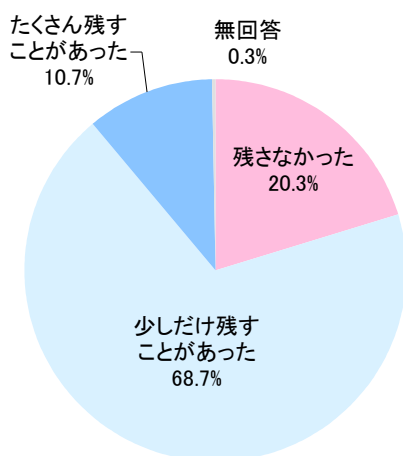
【一般調査】



【小中高校生調査】



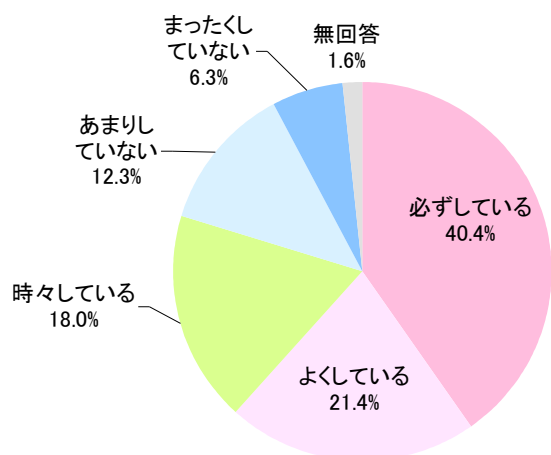
【幼稚園・保育園の保護者調査】



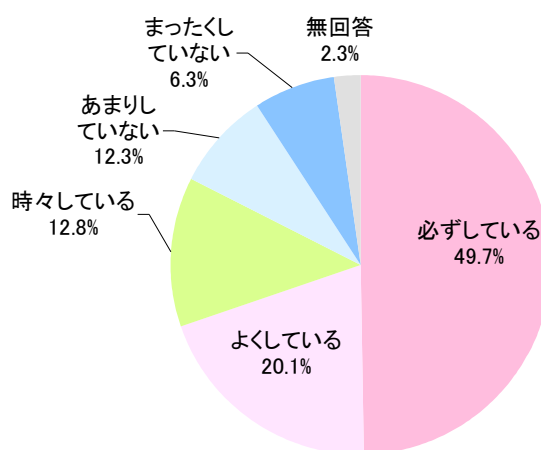
⑤食事の際のあいさつの有無

食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」といったあいさつを概ねしている割合<sup>※1</sup>は、一般調査が61.8%、小中高校生調査が69.8%、幼稚園・保育園の保護者調査が81.8%となっています。

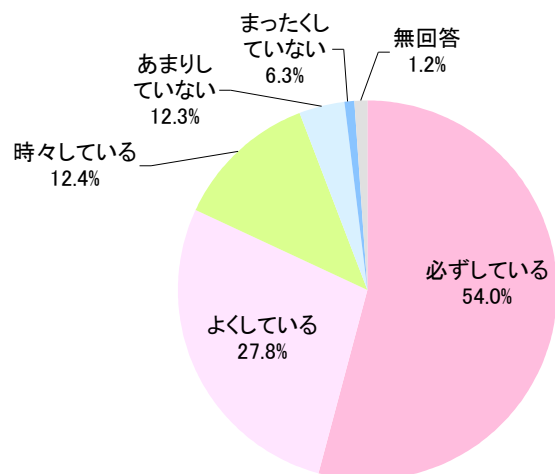
【一般調査】



【小中高校生調査】



【幼稚園・保育園の保護者調査】

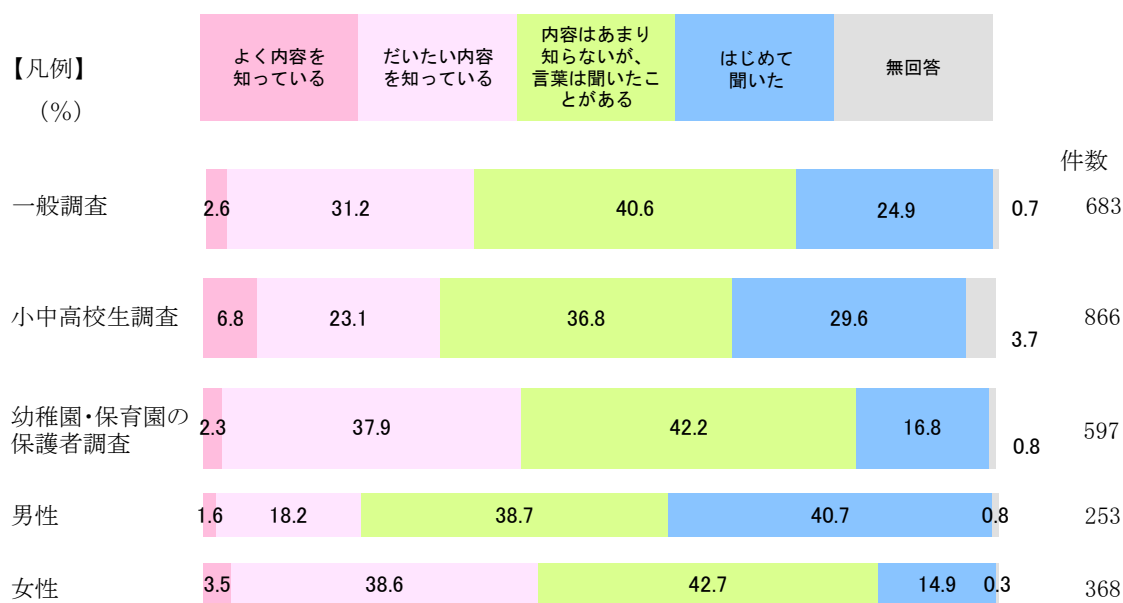


※1 「必ずしている」「よくしている」の計

⑥ 「食事バランスガイド」の認知

「食事バランスガイド」について「内容を知っている<sup>※1</sup>」人は、一般調査では、33.8%、言葉の認知度<sup>※2</sup>は74.4%となっており、小中高校生調査で「内容を知っている<sup>※1</sup>」は29.9%、言葉の認知度<sup>※2</sup>は66.7%、幼稚園・保育園の保護者調査で、「内容を知っている<sup>※1</sup>」は40.2%、言葉の認知度<sup>※2</sup>は82.4%となっています。

また一般調査を性別でみると、内容の周知、言葉の認知ともに女性の割合が高くなっています。



※1 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

※2 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」「内容はあまり知らないが、言葉はきいたことがある」の計



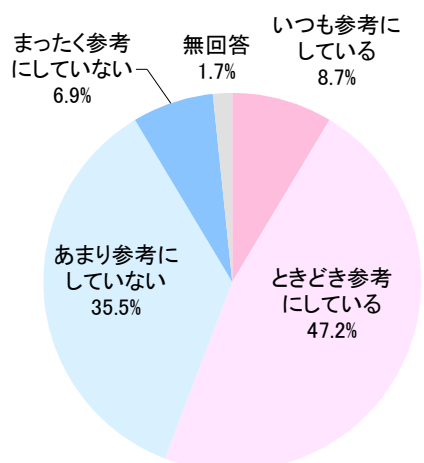
⑦「食事バランスガイド」を参考にしたメニューづくり

「食事バランスガイド」を知っている人のうち、「いつも参考にしている」人は、一般調査では8.7%、幼稚園・保育園の保護者調査では8.3%と1割未満ですが、「ときどき参考にしている」をあわせると、一般調査では55.9%、幼稚園・保育園の保護者調査では51.6%と5割以上の方が参考にしています。

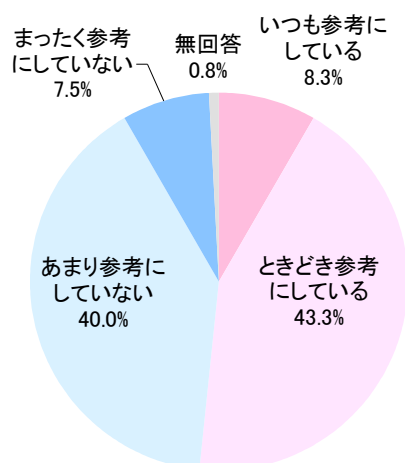
認知度に対して、食事バランスガイドを参考にして料理をつくるといった利用度はかなり低くなっています。

食事バランスガイドの内容や使い方について周知し、よりわかりやすい、利用しやすい内容について検討していくことが必要です。

【一般調査】



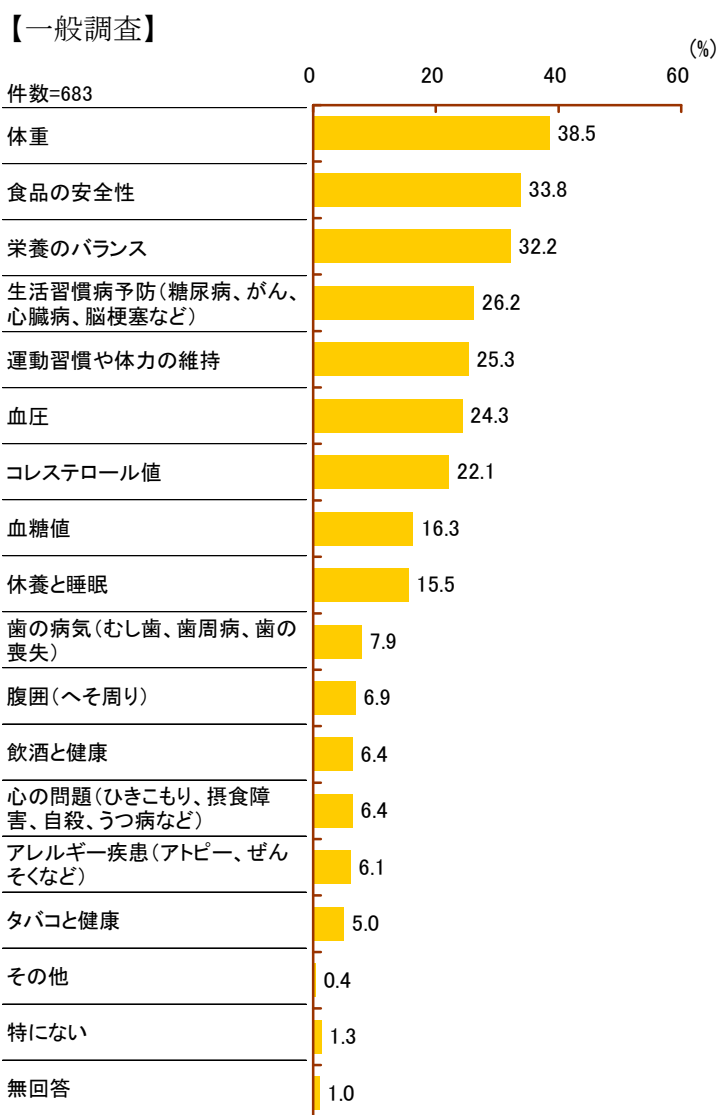
【幼稚園・保育園の保護者調査】



⑧食と健康に関して関心のあること

食と健康に関して関心のあることは、「体重」が38.5%で最も高く、以下、「食品の安全性」(33.8%)、「栄養のバランス」(32.2%)、「生活習慣病予防(糖尿病、がん、心臓病、脳梗塞など)」(26.2%)、「運動習慣や体力の維持」(25.3%)、「血圧」(24.3%)、「コレステロール値」(22.1%)などとなっています。

食と健康に関する正しい知識の普及とそれに基づく市民一人一人の行動を促していくことが重要です。



(2) 食文化・地産地消について

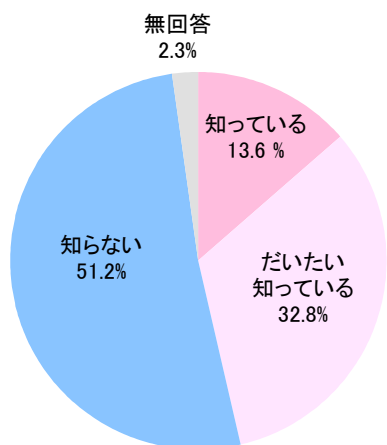
①小牧市の地元産の食材の認知

小牧市の地元産の食材を「知っている」と答えた人は、一般調査では13.6%にとどまっております、「だいたい知っている」をあわせても46.4%と5割を下回っています。小中高校生についても「知っている」と答えた人は5.5%にとどまっております、「だいたい知っている」をあわせても26.6%と3割を下回っています。

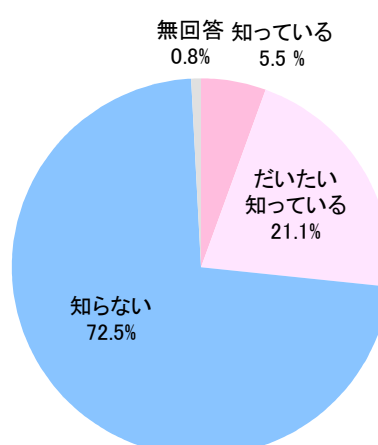
小牧市の特産品として思い浮かべるものは、「桃」が最も多くなっています。

学校教育の総合学習などにおいて農業体験等を通じ、身近な地元産の食材の認知や農業への理解を深めることが重要です。

【一般調査】



【小中高校生調査】



■小牧の地元産の食品、食材として思い浮かべるもの（上位項目）

【一般調査】

順位	小牧市の特産品	件数
1	桃	221
2	里芋	19
3	米	14
3	梨	14
5	ぶどう	11
6	果物	10
7	大根	4
8	野菜	3
8	えび芋	3
8	キャベツ	3
8	名古屋コーチン	3

【小中高校生調査】

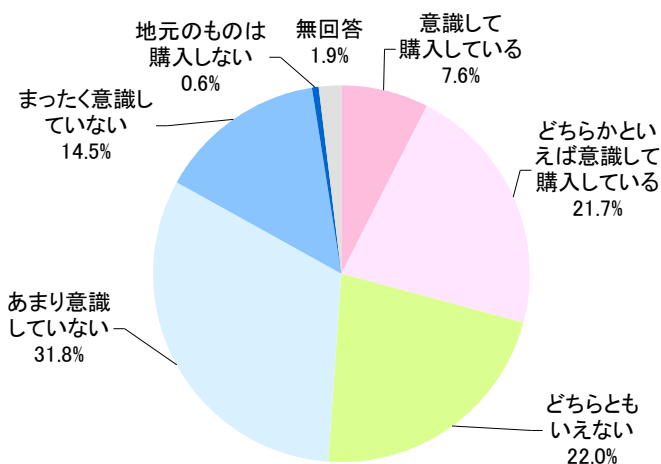
順位	小牧市の特産品	件数
1	桃	134
2	キャベツ	28
3	梨	23
4	名古屋コーチン	6
4	里芋	6
6	トマト	4
6	米	4
6	いちじく	4
9	じゃがいも	3
9	芋	3

②地元産の野菜や果物の購入

地元産の野菜や果物を「意識して購入している」人は7.6%と1割未満であり、「どちらかといえば意識して購入している」をあわせても「意識している」人は、29.3%で約3割にとどまっています。

どこに売っているのかわからないといった意見も聞かれ、地元産食材のPRとともに、取り扱う店舗を増やすことが重要です。

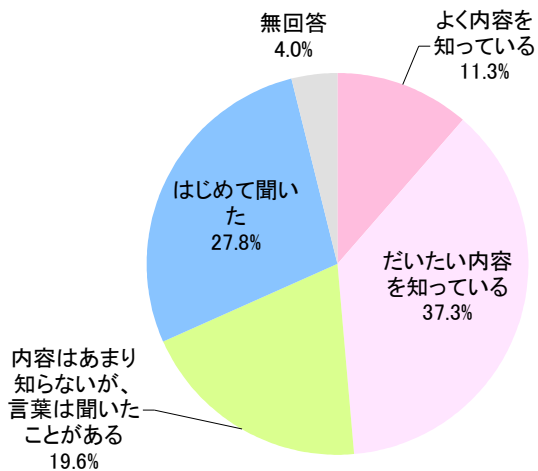
【一般調査】



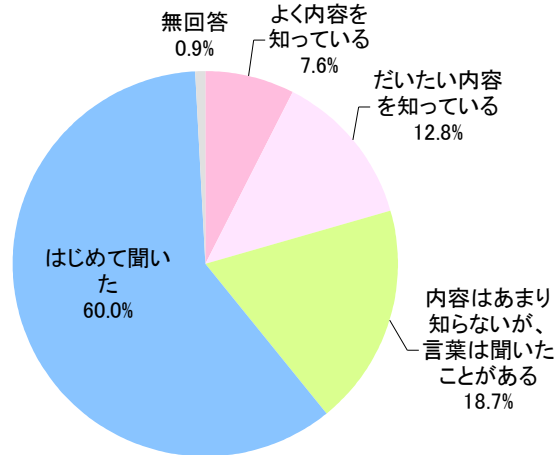
③「地産地消」の認知

一般調査では、「地産地消」の「内容を知っている<sup>※1</sup>」人は48.6%で約5割、言葉の認知度は、68.2%で約7割となっています。小中高校生調査では、「内容を知っている<sup>※1</sup>」人は20.4%で約2割、言葉の認知度は39.1%で約4割となっています。

【一般調査】



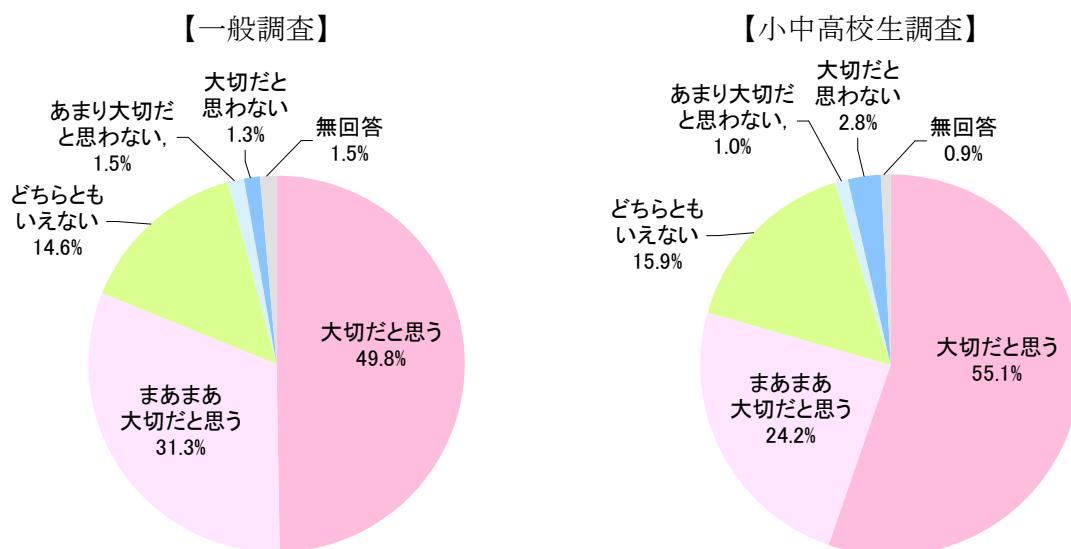
【小中高校生調査】



※1「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

④「地産地消」の大切さ

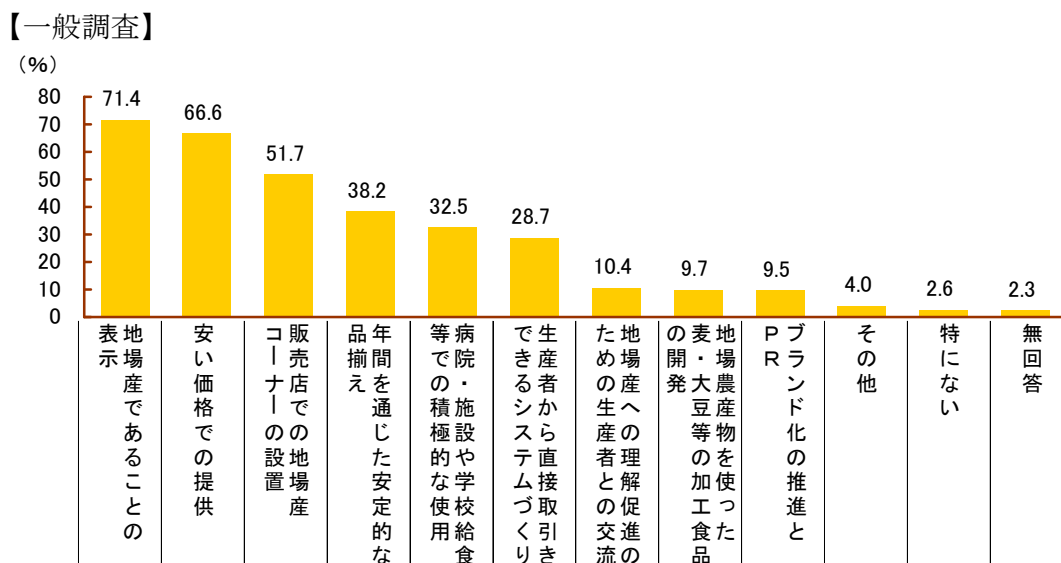
「地産地消」を「大切だと思う<sup>※1</sup>」人は、一般調査で81.1%、小中高校生調査で79.3%あり、ともに約8割となっています。



※1「大切だと思う」「まあまあ大切だと思う」の計

⑤「地産地消」を推進する上で必要だと思うこと

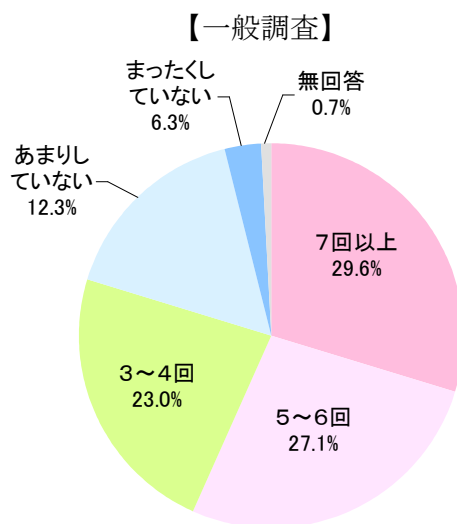
地産地消を推進する上で必要だと思うことは、「地場産であることの表示」が71.4%で最も高く、次いで「安い価格での提供」が66.6%、「販売店での地場産コーナーの設置」が51.7%などとなっています。



⑥1年間に家庭で行う行事食の回数

家庭で行う行事食の回数について、「年5回以上」である人はあわせて56.7%となっています。

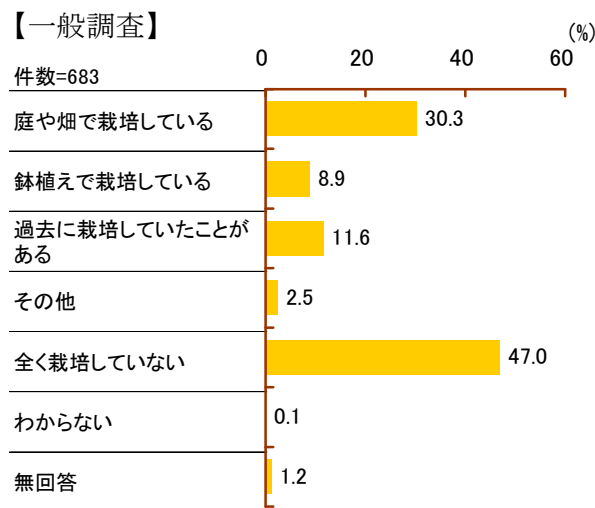
食文化や自然の恵み、生産者への感謝の気持ちなどを通して、豊かな心を育むことができるような機会づくりが必要です。



⑦自宅で食べる野菜の栽培

自宅で食べる野菜を「庭や畑で栽培している」人は3割、「鉢植えで栽培している」人は1割弱となっています。一方、現在は「栽培していない<sup>※1</sup>」人はあわせて6割弱となっています。

野菜を育てることにより、収穫の喜びを感じたり、環境への配慮が高まるような環境づくりが必要です。

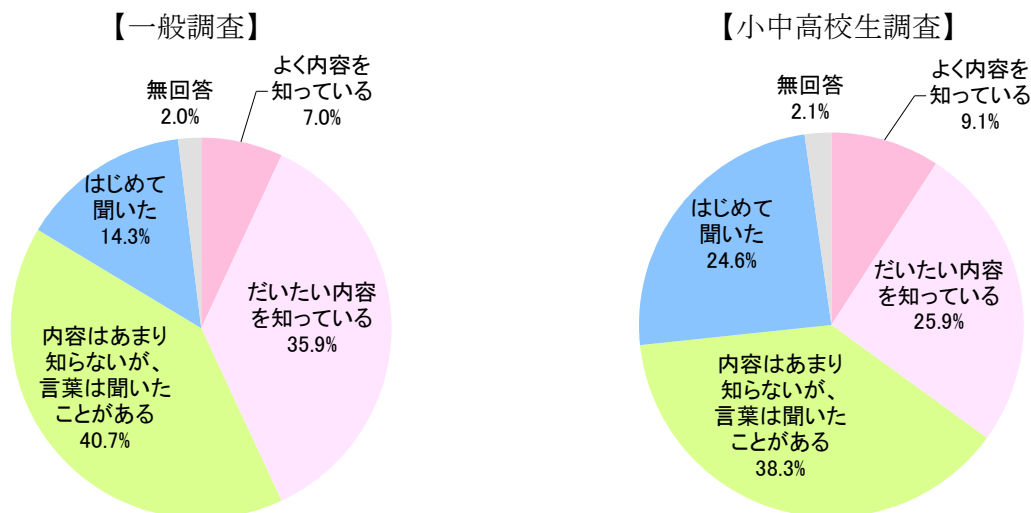


※1 「過去に栽培していたことがある」「全く栽培していない」の計

### (3) 食育について

#### ①「食育」の認知

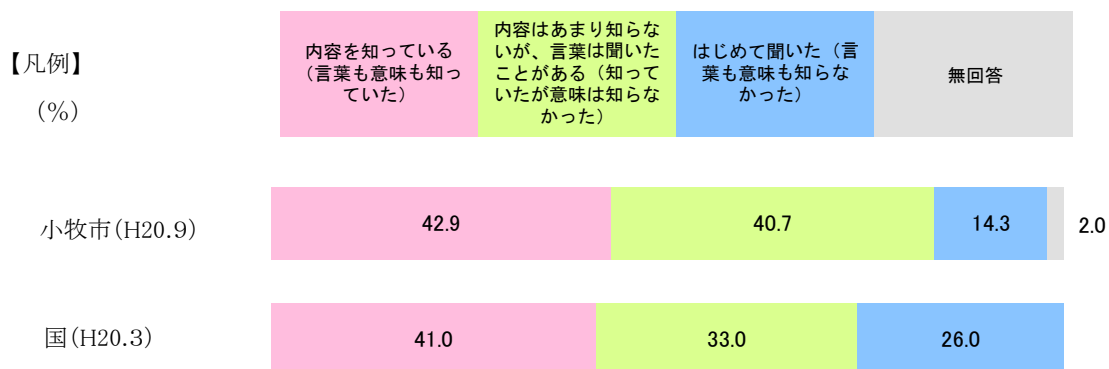
一般調査では、「食育」の「内容を知っている<sup>※1</sup>」人は42.9%、言葉の認知度は83.6%となっています。小中高校生調査では、「内容を知っている<sup>※1</sup>」人は35.0%、言葉の認知度は73.3%となっています。



※1「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

#### 【国の調査との比較】

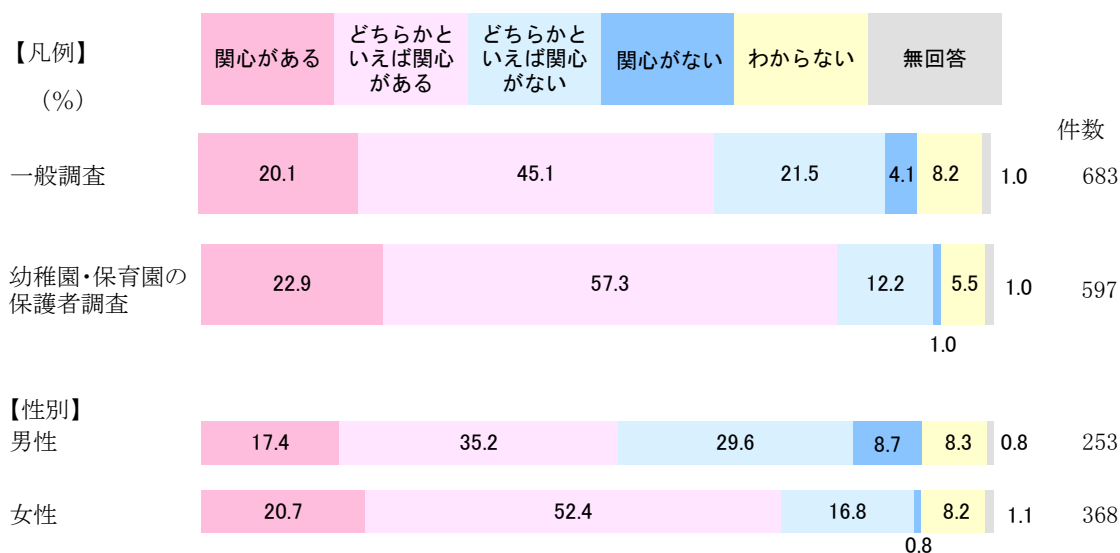
国（内閣府）が平成20年3月に実施した調査と比較すると、内容の周知は小牧市42.9%、国41.0%でともに約4割であり、言葉の認知は小牧市が83.6%で、国74.0%を9.6%上回っています。



※小牧市の「内容を知っている」は、「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計  
凡例の( )の内容は、国の選択肢

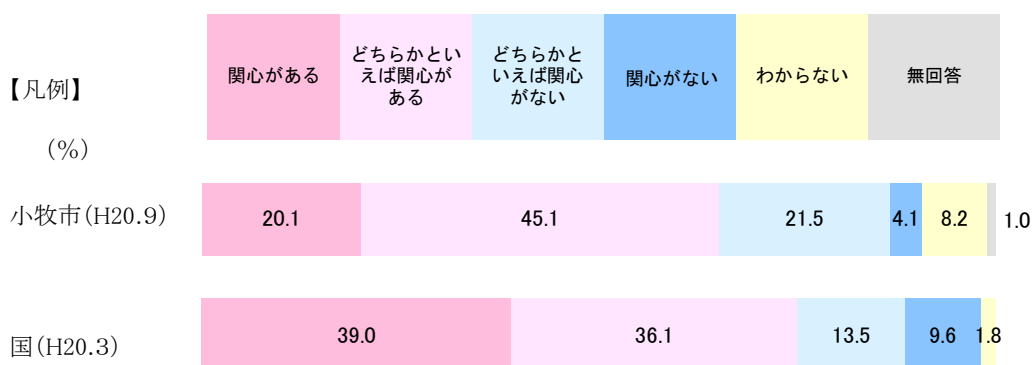
②「食育」についての関心

「食育」に「関心がある<sup>※1</sup>」人は一般調査では65.2%であり、性別でみてみると男性（52.6%）よりも女性（73.1%）の割合が高くなっています。また、幼稚園・保育園の保護者の約8割が「関心がある<sup>※1</sup>」と回答しています。



【国の調査との比較】

国（内閣府）が平成20年3月に実施した調査と比較すると、「関心がある<sup>※1</sup>」人は、小牧市（65.2%）が国（75.1%）の割合を下回っています。一方、「関心がない<sup>※2</sup>」は、国（23.1%）と小牧市（25.6%）に大きな差はなく、小牧市では「わからない」の割合が高くなっています。



※1 「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の計

※2 「どちらかといえば関心がない」「関心がない」の計



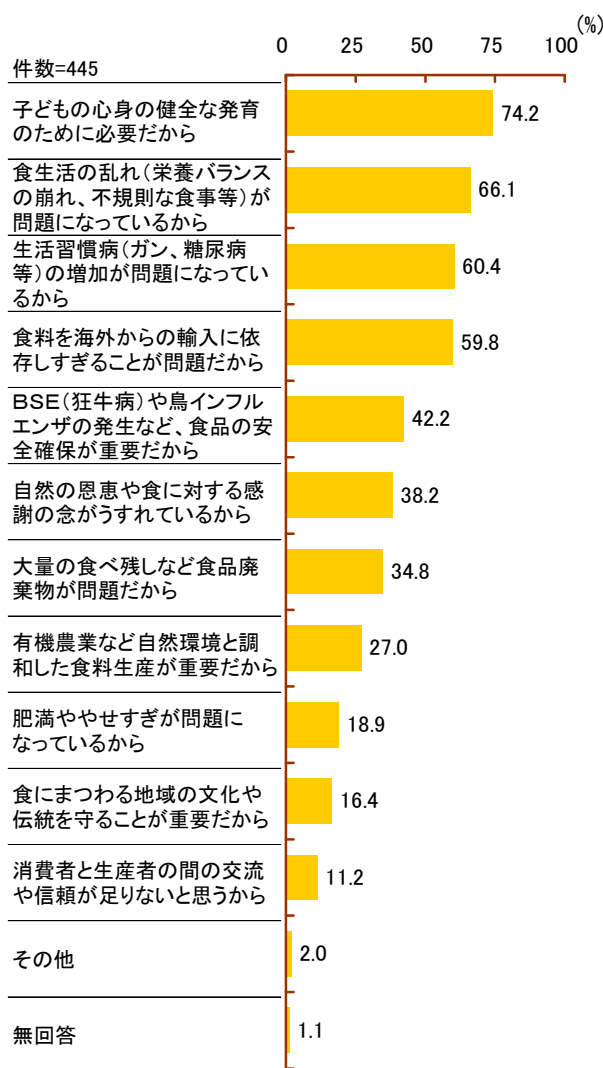
③ 「食育」に関心がある理由、「食育」に関して大切なこと

「食育」に関心がある理由は、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が74.2%で最も高く、次いで「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから」（66.1%）、「生活習慣病（ガン、糖尿病等）の増加が問題になっているから」（60.4%）が6割台で続いています。

「食育」に関して大切なことは、「1日3食、規則正しく食べること」が86.6%で最も高く、次いで「食べ物をむだにしないこと」「家族や友だちと楽しく食べること」「食事のときに「いただきます」など感謝をすること」が7割台で続いています。

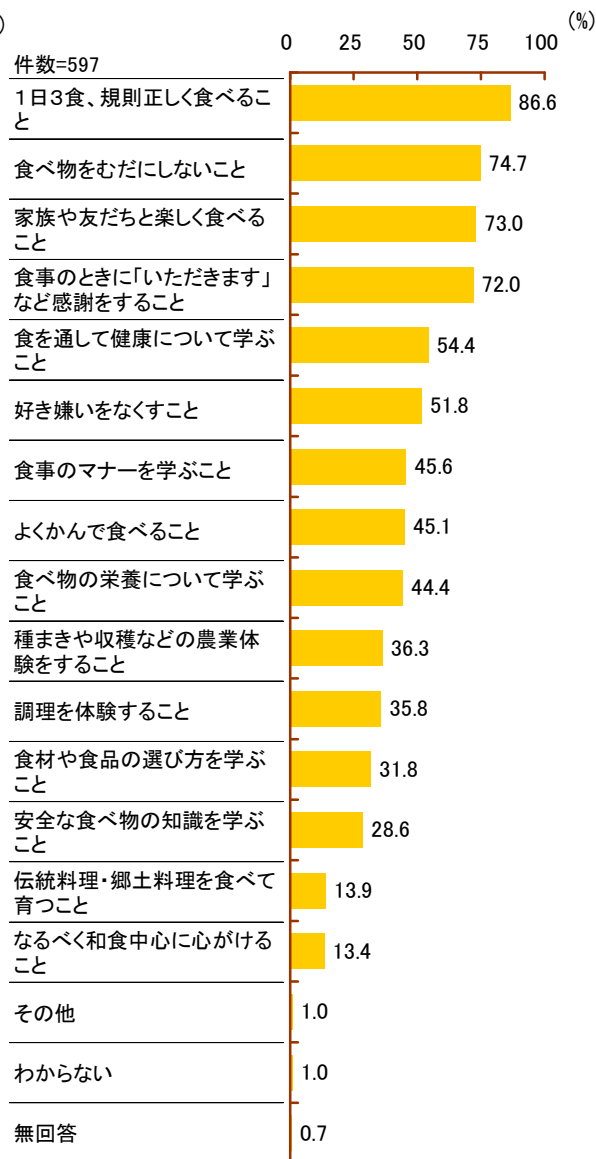
■ 「食育」に関心がある理由

【一般調査】



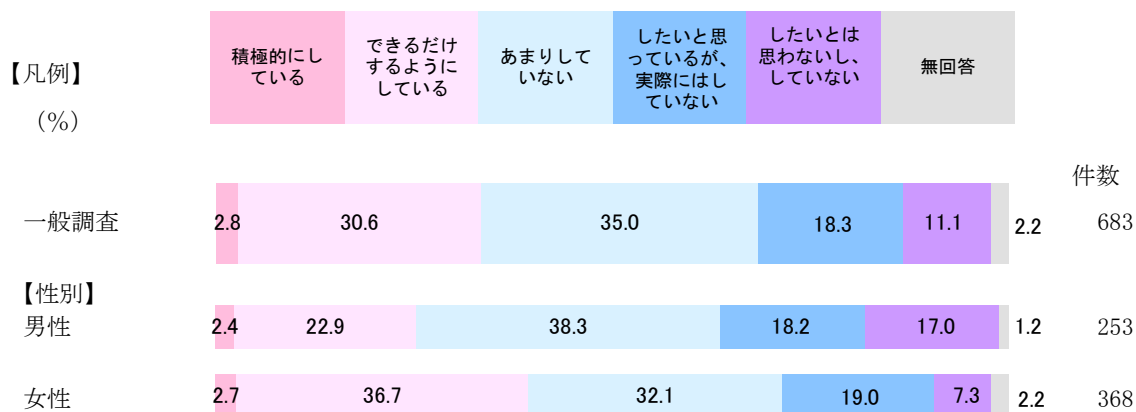
■ 「食育」に関して大切なこと

【幼稚園・保育園の保護者調査】



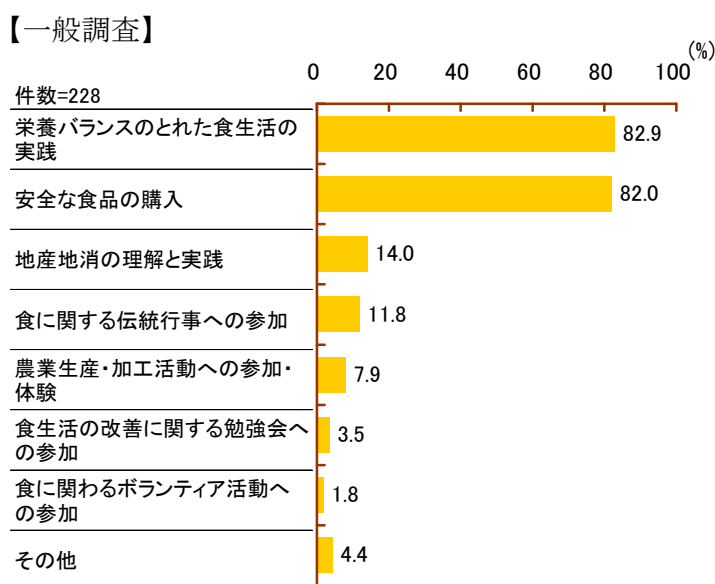
④「食育」に関する活動や行動

「食育」に関する活動や行動を「積極的にしている」人は2.8%にとどまっています。これに「できるだけするようにしている」人をあわせると活動や行動を「している」人は33.4%となります。この割合は、男性（25.3%）よりも女性（39.4%）で高くなっています。

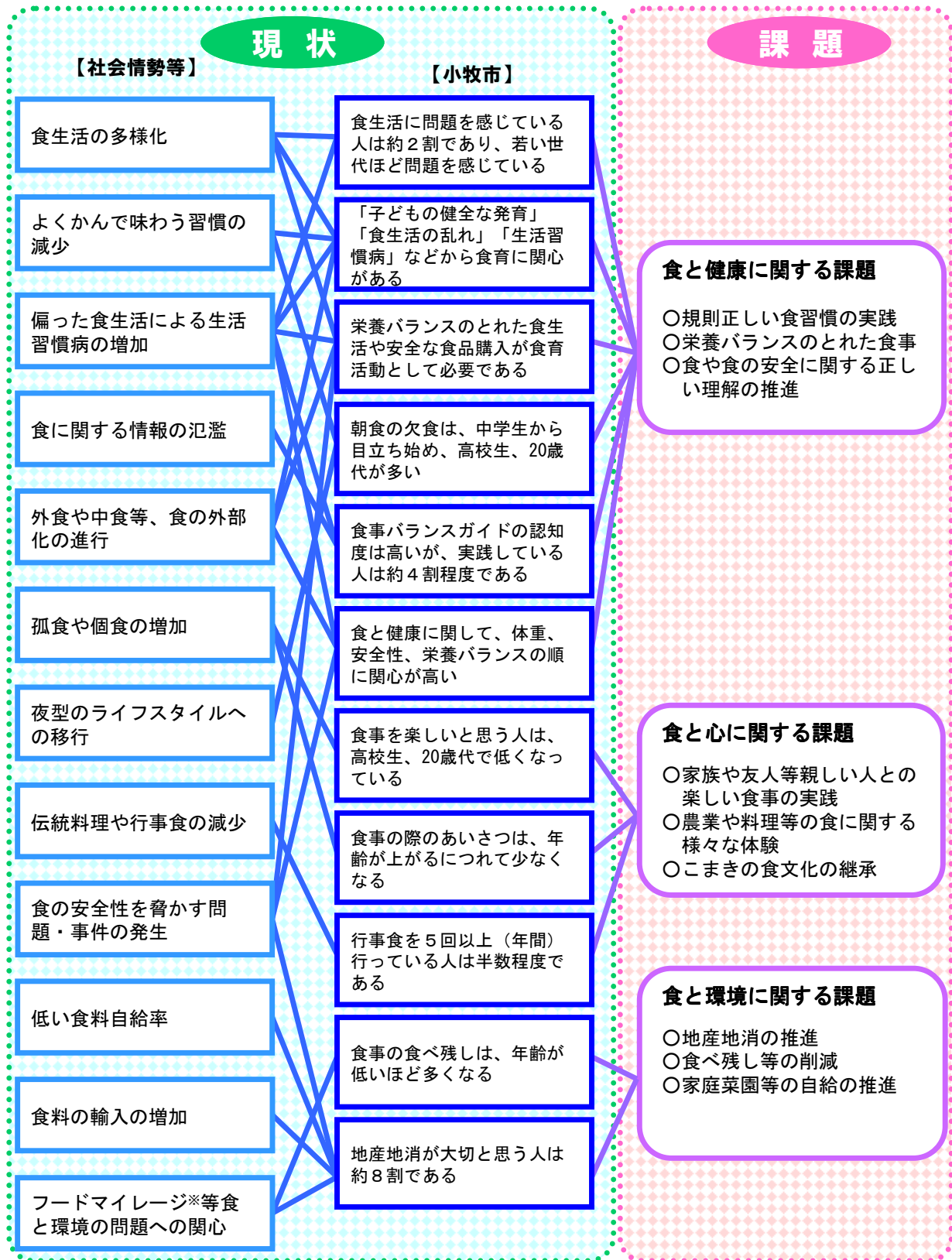


⑤活動や行動をしている内容

活動や行動をしている内容は、「栄養バランスのとれた食生活の実践」「安全な食品の購入」の割合が8割台で高く、これら以外の活動は2割以下となっています。「食育」の言葉とともに、内容の理解を深め、市民一人一人の活動を促していくことが重要です。



## 小牧市の食に関する現状と課題



※フードマイレージとは、食べ物の輸送距離のこと。